

編集 後記

COVID-19流行の第二波か！とも言われた6月からの感染者数増加もひとまずピークを越えた感がありますが、それでも毎日多くの感染者が報告されています。このような状況下、米国のCDCのような組織の必要性が多くの識者から指摘されています。本号（67巻第9号）ではCDCの概要と日本版CDC構想への論点整理が論壇として簡潔にまとめられています。これから議論が進むであろう日本版CDC構想への理解を助けるために、時宜を得た掲載にできたと思います。

本号にはこの論壇1編と原著3編、資料2編、計6編を掲載することができました。最初の原著では、管理栄養士・栄養士におけるう歯・歯周病の学習状況に関連する要因を質問紙調査結果から分析しています。歯科分野における管理栄養士等の活躍の場が拡がっている中、管理栄養士養成施設に身を置く私のような立場の者にとって大いに参考になる論文でした。残る原著のうち1編は地域福祉コーディネーターによる地域への介入プロセスを分析した質的研究、もう1編は日本人女性における乳がん発見率の経時的变化について、年齢・期間・出生コホートの各影響および地域差を、過去の検診データから解析した研究です。

資料のうち1編は、気象データとレセプトデータを組み合わせて気象関連疾患の受診者数を予測しようとする「Health Weather」の取り組みについて、小児ぜん息患者数を予測するモデルの分析結果を紹介しています。もう1編では、2002年と2018年に実施された既存調査データの分析によって、都道府県の保健所における精神保健福祉業務専従職員の配置も変化や、配置状況の類型によって業務実績が異なること等を明らかにしようとしています。

このように本号には実にバラエティーに富んだ論文が集まっており、公衆衛生学会は様々な立場から保健・福祉・医療に貢献している研究者・教育者・実務者が集まる貴重な場であることがあらためて実感されます。来月には当学会として初めてのオンラインによる総会が開催されます。コロナ禍の中、総会の開催に向けてご尽力くださっている関係各位には感謝の念に堪えません。職場や自宅からでも参加出来るこの機会を活かし、是非とも多くの皆様からご参加いただきますよう、よろしく願いいたします。

(田邊直仁)

次号予告（第67巻・第10号）

原著

- 高校生幸福感受イベント尺度の開発
井村 亘, 他
 横断研究による推定24時間尿中ナトリウム・カリウム比およびBMIと血圧との関連：神戸研究
野澤美樹, 他
 ウォーキングによる健康ポイント事業が高齢者の歩行時間、運動機能、うつに及ぼす効果：傾向スコアを用いた逆確率重み付け法による検証
藤原聡子, 他
 アトピー性皮膚炎と子どもの精神健康状態の関連の検討：北海道スタディ.....湊屋街子, 他
 フレイル改善のための複合プログラムが要介護・死亡リスクと介護費に及ぼす影響：傾向スコアマッチングを用いた準実験的研究
横山友里, 他